

英語による知的財産教育

Education of Intellectual Property in English



奈良先端科学技術大学院大学研究推進機構産官学連携推進部門長・教授

久保 浩三

昭和 62 年弁理士試験合格。大阪府立産業技術総合研究所、(財)大阪府研究開発型企業振興財団、大阪府立特許情報センターを経て、平成 15 年 4 月から奈良先端科学技術大学院大学。
現在、奈良先端科学技術大学院大学研究推進機構産官学連携推進部門長・教授。平成 22 年産業財産権制度関係功労者表彰（特許庁庁長官表彰）。

✉ kubo@rsc.naist.jp

☎ 0743-72-5601

1 はじめに

2003 年に大阪府立特許情報センターから奈良先端科学技術大学院大学に移ってから、知的財産の講義をずっと担当している。情報科学研究科、バイオサイエンス研究科、物質創成科学研究科の 3 研究科で講義時間が異なるので、少しずつ違う内容で講義を行ってきた。

その中で、情報科学研究科が英語だけで卒業できるように大幅に英語の講義を増やすことになり、2011 年に知的財産についても英語でできないかという打診があった。実を言うと、あまり自信はなかったのだが、これからの大学はグローバル化が進み、おそらく将来ほとんどの講義は英語になるだろうとの予想の下、あえて引き受けることとした。それから毎年、講義を行い、今年で 6 年目になるが、その経験を披露すれば、いろいろな方に役立つのではないかと思い筆を取った。

もちろん英語での教育は現在、いろいろな大学で行われているが、知的財産に限って言えば、まだそう多くはない。知的財産教育研究・専門職大学院協議会が 2012 年から英語講義を始め、それをお願いをして参加させていただいた。そこに参加している大学の先生方も各大学で英語教育を一部で行っているようだが、まだメジャーではない。また、個人的意見だが、英語に関し言えば、海外駐在 10 年以上が上級で、10 年から 3 年が中級、3 年までが初級と考えていて、ほとんどの英語教育は、海外在住 10 年以上の方がやっておられて、それ以下の方のそれは聞いてもあまり参考にならない。筆者は長期の海外駐在経験はなく、まさに初級中の初級

であり、その人間がどのように英語講義を行っているかについてはいろいろな方に参考になるのではないかと考えている。

2 英語講義を始めるまでの英語勉強

大学院での修士論文は英語で書いたが、特に英語が得意というわけでもなかった。研究科（機械工学専攻）修了後大阪府庁に就職したが、仕事ではほとんど英語を使わず、1987 年に弁理士試験に合格したが、その受験勉強中も法律科目が中心で全く英語には縁はなかった。

弁理士試験に合格してからは、業務で英語を使う必要が出てくると思い、久しぶりに英語の勉強を始めたが、ラジオ英語講座「やさしいビジネス英語」を聞いてもほとんど理解できなかった。（聴取者の間では、少しも「やさしく」ないと評判だったが。現在は同程度の内容で「実践ビジネス英語」として放送が続けられている。）1990 年代は英語ノベルを読んだりして（Sidney Sheldon のペーパーバックは全て読んだ）、英語をかなり勉強した積りだったが、実際に業務ではほとんど英語を使わないため、切実さがなくあまり上達しなかった。

2003 年に大学に移ってからは、さすがに英語に触れる機会が増えたため、毎日「The Daily Yomiuri」（現在は、「The Japan News」）を読んで英語に触れるとともに、2004 年から 2011 年の 8 年間は近所のネイティブスピーカーに週 1 回個人レッスンを受けて、発音をかなり矯正してもらったのは良かった。

海外から人が来られたときに英語でプレゼンをする機

会が増えたが、30分程度で、しかも大学や研究の紹介程度でそんなに難しい内容ではなかった。それでも初めて英語プレゼンをするときは、いろいろな本を読んで原稿を作り一生懸命暗記をしたが、お世辞にも褒められたものではなかった。

3 英語講義をすることが決まってからと講義が始まってから

大学で英語講義をすることが決まってから、まず英文テキストの作成から始めた。パワーポイント（PP）で作成するのだが、日本語のPPを英語に翻訳していくととても時間がかかり効率が悪い。そこで、いろいろと探して World Intellectual Property Organization (WIPO) がウェブ上で公開しているテキスト^{1,2,3,4,5} やいろいろな本^{6,7,8,9} から一部を引用することにした（大学での講義は、著作権法第35条による例外）。

次に講義で話すことの英語化を行った。英文知的財産権法¹⁰や知的財産用語の参考資料¹¹や講義英語化のための参考資料^{12,13,14}を使って原稿を作った後は、できるだけ、それを繰り返し話して身に着けるようにした。そのために、週1回の個人レッスンで披露したが、絶対量

が足りない。そこで、同じネイティブスピーカーを先生とする生徒に声をかけ、週2回喫茶店で集まり英語だけで話す「英会話クラブ」を作った。この英会話クラブのメンバーの前で披露して講義の練習を行った。これは知的財産について全くの素人に説明するので、どこが理解できないかの勉強になった。

最初の年の講義は90分での8回の講義で、毎週その日に合わせて英語を覚え、またできるだけ日本語を使わないようにした。しかし、1年目はやはり十分なものではなかった。

2年目以後は、前年の反省も踏まえ、内容を一生懸命覚えようとしたが、量が多すぎてなかなか覚えられない。そこで、つなぎ言葉を一覧にして覚えて、後の内容は考えながら話すことにした。それと一つの言葉で伝わらないときは、いろいろな言葉で言い換えて話すようにした。そのため自分用の単語帳を作成しているが、一つの日本語について、2つか3つくらいの英語を書くようにした。最近では、ようやくすらすら話すことができるようになった。

4 講義スタイル

講義スタイルについては、一方的な講義では学生も退屈するので、90分時間のうち、ディスカッション時間を30分くらいは取るようにしたり、関連する英文記事を順番に音読してもらったりして、興味を惹いてもらうように工夫をしている。

双方向のアクティブラーニングは積極的に参加できるので学習効果は高いが、伝達する知識量は多くはならないので、事前の予習が必須となる。予習が完全にできるならばアクティブラーニングがよいが、それが担保できないなら、講義中心のパッシブラーニングもそれなりに意味はある。

米国ではアクティブラーニングが主流のように言われるが、私がファカルティディプロップメントを受けたカリフォルニア大学デビス校において聞いたところ、アクティブラーニングの割合は40%程度で、やはり一方の講義のみのケースもあり、老先生が眠そうな声でボソボソ言っている講義もあり、事実多くの学生が眠っていた。

- 1 WIPO Publication No.917 Inventing The Future- An Introduction to Patents-
- 2 WIPO Publication No.918 Creative Expression- An Introduction to Copyright-
- 3 WIPO Publication No.498 Looking Good- An Introduction to Industrial Designs-
- 4 WIPO Publication No.900 Making a Mark- An Introduction to Trademarks-
- 5 WIPO Publication No.903 Successful Technology Licensing
- 6 Protecting Your #1 Asset, Michael A. Lechter, ESQ., WARNER BOOKS
- 7 Patent It Yourself, David Pressman, NOLO
- 8 The Inventor' s Notebook, Fred Grissom & David Pressman, NOLO
- 9 Intellectual Property The Law of Copyrights, Patents and Trademarks, Roger E. Schechter, THOMSON WEST
- 10 Japanese Laws Relating to Industrial Property, AIPPI・JAPAN
- 11 特許法務英和和英辞典、片岡英樹、国際語学社
- 12 教室で使う英語表現集、曾根田憲三他、ベレ出版
- 13 教室英語表現辞典、染矢正一、大修館書店
- 14 教室英語活用事典、高梨庸雄他、研究社



5 現在の英語勉強法

そもそも海外在住の長い先生に比べて英語力が圧倒的に不足しているので、今でもかなりの時間を英語学習に充てている。以下の表は、それをまとめたものである。

具体的には、ラジオ英会話「ニュースで英会話」「攻略！英語リスニング」「実践ビジネス英語」を録音して2倍速で何回も聞いて意味を取れるようしている。実際の英会話では、配慮してくれる相手だと放送のスピードだが、ネイティブの会話は容赦なく、通常1.3倍から1.6倍くらいのスピードで話し、ある部分では2.0倍近いスピードになる。また、そのスピードでShadowingを

最低10回は行うようにしている。

ニュースに関しては、録画した夜7時からのNHKニュースを毎日聞き、BBC放送がウェブからダウンロードできるので、News hourとGlobal Newsとを録音して通勤の車の中で聞いている。また、The Japan Newsを毎日読んでいる。

さらに、英語の好きな友人とスカイプを使って定期的に話をし、また学内のネイティブスピーカーと定期的に話をすることによって、英語を話す口が鈍らないようにしている。週末には、Netflixで字幕に英語を出して洋画を数本見ている。(残念ながら、完全に理解するためには英語字幕がまだ必要だが。)

Table 1. Basis for English Learning

Object		Contents	Time	Method
Listening	Radio NHK	ニュースで英会話	Morning	× 2.0 Speed Shadowing 10 times
		攻略！英語リスニング	Morning	× 2.0 Speed Shadowing 10 times
		実践ビジネス英語	Morning	× 2.0 Speed Shadowing 10 times
Reading/Writing	News	TV NHK News	Night	Do not look at Japanese script
		BBC News	Car	
		The Japan News	Lunchtime	Read quickly
Speaking	Conversation	Ms. A	Night	Skype
		Mr. B	Daytime	Meeting
		Mr. C	Daytime	Meeting
Entertainment	Movie	Netflix	Weekend	Shadowing, Self-speed check

6 現在の英語教育内容

よく言われることだが、グローバル化において英語が重要なのではなく、教える内容が重要であることは間違いない。海外に長くおられた先生は、下手な英語で貧弱な内容を教えるくらいなら、日本語で深い内容を教えた方がはるかに良いと言うことをよく言われる。それはその通りだが、だからと言っていつまでも日本語だけの講義では、世界から取り残されてしまう。英語で留学生を中心に講義を行っている、海外から来た留学生が何に興味があって何に興味がないのかがよくわかる。例えば、日本の特許の講義でよく行われる日本の特許手続きについては、留学生を含む学生はほとんど興味がない。むしろ知的財産を活用してどのようにビジネスを行うのか、国を活性化するために将来の知的財産権法についてどのように制度設計をすべきかが興味があるようだ。

現在、いろいろな対象者向けに以下の表のような講義を行っている。

Table 2. English Lecture Contents

Theme	Specification	For whom
Base	Basic Practical Knowledge of IP, How to Research a Patent Related to the Study Subject, How to Make a New Invention by Using Published Patents, How to Write Patent Claims, Trends in IP, Patent Applications, Patent Rights, Licensing Agreements, Treaties, Overseas Patents, Copyright Law, etc.	Learners (beginner)
Management of IP	Open & Closed Strategies (knowhow, technology standard, etc.) Global Entrepreneur	SME Learners (beginner) Venture companies
Industry- Government- Academia Collaboration	Intellectual Asset-based Management (Intellectual Capital Statement) IP Management in Universities, Joint Research, Conflict of Interest, etc. Technology Transfer	SME University staff University staff
Future of IP	New Areas in IP	Learners (advanced)

*IP= Intellectual Property

SME= Small- and medium-sized enterprises

7 おわりに

現在、90分英語講義を大学で20数回、その他を含めて年間30回程度は行っているが、自分の実力不足を痛感している。英語で講義を行っているときは英語がよく聞き取れるが、日本語の長い講演をした後は、英語が聞き取りにくくなっている。完全にバイリンガルの方は、母国語脳と同時に外国語脳ができていてスイッチングに全く問題ないと思われるが、まだその域に達していない人間は常にトレーニングが必要である。いっそ日本語を全く話さなければよいと思うが、日本にいと仕事のほとんどは日本語で行われるため、なかなかそうもいかない。そうすると各人が工夫をして自分で英語に触れる時間を増やすしか方法はなさそうだ。

英語上級者ではなく、英語初級者の英語講義法を書いたが、同様の立場に置かれた方に少しでも参考になれば幸いである。